
HERO SAGA SID OUT

2M

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

HERO SAGA SIDE OUT

【著者名】

IZUMI

2M

【あらすじ】

誰かが語る思い出話 知らなくていい話 聞かなくていい話
引くも捨てるもあなたしだい さて 少女は何を聴く

そこには一つの街がある
ただし、見ただけでは「街があつた」だろつ
まともに建つたビルは無く、どう見ても廃墟の群集
日を遮り地面など見えない

しかしそこに暮らす人々は多く
その地はまだ街と呼べるのである

その町からかなり離れた丘の上、奇妙な建造物がひとつ
角張ったコンクリ製の碑の上にグサリと刺さる巨大鎌
まともな記念碑とは思えない 文字の一つも彫られていないのだから
そんな碑に一人の女性が花を供えた
摘んできた様な粗末な花 生えてた場所の土ごと供えるのはどうか
と思ひが

「おばちゃん、どこの人？」

どこから来たのか 一人の女の子が声をかける

「ちょっと遠くから。昔はあの街に暮らしてたのよ。」「
「じゃあおばちゃん、出られた人なの？」
「ううん。私は出て行つたの」

碑に手を合わせる女性
少女はその横に並び

「おばちゃんは、誰の碑おはかなののか知つてるの？」

「あら 誰からも教わらなかつたの？」

女性が優しく訊ねると

「ママもパパも』『イツのせいで歸つた』としか言ってくれない」

少女は優しく答えた

「ね。おばちゃんは教えてくれる？」
「いいけど、楽しい話じゃないよ。いいの？」
「じゃあ、悲しい話？」
「ううん。優しい話。」

地に腰掛けた女性は少女に向き合つて

「むかしむかし。今から20年前、私が9歳くらいだったとき・・・」
「じゃあ私と同い年だね。」

小さな小さな おもいで昔話を始めた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3963m/>

HERO SAGA SID OUT

2010年12月30日19時04分発行